

アメリカ合衆国 バラク・オバマ大統領 閣下

謹啓 晩秋の候、貴台におかれましては、任期満了を控え、多忙な毎日を過ごされていることと拝察いたします。

本日、貴台に改めて感謝の気持ちをお伝えするとともに、ささやかな願いを込めて広島でこの書簡を認めています。

貴台が現職の米国大統領として初めて被爆地・広島を訪問されてから半年が経ちますが、その歴史的な一日は今でも決して忘れることはありません。貴台が、被爆地から発せられた平和のメッセージは、核兵器廃絶に向けた強い意思を改めて表明されたものでした。被爆者が辛く悲しい境遇の中、紡ぎ出した「このような体験を他の誰にもさせてはならない。」という被爆者の強い思いを受け止めていただいたことに広島市民は感銘を受け、被爆体験を原点に未来志向の重要性を強調されたことに、大きな希望を抱いています。

貴台は御退任後も、引き続き、「核兵器のない世界」の実現に向けて尽力されることと思います。今後ともぜひ、広島市の核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた取組に御理解を賜りますようお願い申し上げます。とりわけ、平和記念資料館の運営、世界162か国・地域の7,100を超える都市が加盟している平和首長会議事務局を担い、全人類的な視野に立って、平和思想の普及や世界平和の推進に取り組んでいる公益財団法人広島平和文化センターの取組に御理解を賜りますようお願い申し上げます。併せて、当財団とバラク・オバマ財団との連携についても御配意いただければ幸甚です。

近い将来、再びお目にかかれる日が来ることを願っています。貴台のますますの御健勝と御活躍を心から祈念しています。

謹言

2016年12月16日

広島市長

公益財団法人広島平和文化センター会長 松井 一實